

載を畧し、單に實在をいふに止める。字遲江にある夫れは入り口が二ヶ處あり、地平線下に於て、熔岩隧道は環狀を爲すのが異數である。當初に於ける之れが動機を考察する時は、流動性に富む熔岩と重力との關係もあり、又漸次瓦斯の鬱積も偉大な勢力で作用するから、熔岩は何程か外部を突破して、海底に脱け出たのであらうが突破するも、海水の爲め早期に凝固して、脱出口を閉塞すべきにより、熔岩の未凝固するに至らぬ内部に於て、斯のやうな畸形的通路を爲したのかと思ふ。要は一般海底に於ける熔岩の噴出と事情の密接なる關係あるにより、此處に記載して異常熔岩隧道の形成假説を是正せらるべく俟つ次第である。(未完)

新著紹介

○日本鑛床學

岩崎重三著

菊版本文五四三頁

内川老鶴園發行

一月 定價六圓五〇錢

本邦で公にされた鑛床學書は大抵其の論ずる所が世界の鑛

床一般に互つて我邦のを専らにしたものがなかつた。本書は岩崎博士の四十餘年に互つた業績を整理輯録すると同時に最近に於ける内地・朝鮮等の調査所に於ける調査を要約收攬したものである。内容を通觀するに緒論・第一篇總論に於て有用元素や日本の地質及鑛床を一瞥し、第二篇火成鑛床・第三篇水成鑛床・第四篇變成鑛床に分ちて各種鑛床を論ずると共に主として其の例を本邦の鑛床に採つて説明してゐる。かなり理論的の説明もあるから鑛床の真相を究め且つ之を利用せんとする人達の參考に供するに適する。行文は文語に近い所もあり、又假字遣ひに無頓着な點など本著者の如き年輩の人士の通弊を發揮してゐるなどは寧ろ快い點である。(S)

○石物語り

江畑弘毅著

四六倍一〇頁

東京杉並區阿佐ヶ谷日本石材協會發行

十年十二月 定價九五錢

石の様な硬いものでも噛みしめれば噛みしめる程よい味が出るといふ態度で奇石・石材を初め俗習を縦横に軽い筆で書いたものである。知らず知らずのうちに石に對する興味を湧かさうとしてゐる。故巨智部靖南博士の「公園の友」上篇(明治三十八年刊行)以來の通俗石物語であつて、岩石の知識を取り入れた軽い讀物として推奨することが出来る。(S)

○銀

渡邊萬次郎著 工政會出版部發行

二月

定價三圓六十錢

著者は擣きに昭和八年二月新光社から金鑛及金鑛床を出版

され今回銀を出版された。内容は第一篇で銀及其合金に就て物理學的及化學的性質を述べ、第二篇に銀礦物及隨伴礦物の礦物學的記載あり、第三篇では銀の鑛床に就て各鑛山の實例を擧げて説明されてゐる、第四篇は製鍊、第五篇は産出、第六篇は需要及用途を述べて結んで居られる。多年の研鑽と該博なる知識とを以ての著作なれば惡からう筈なく、記載も町噺で引用文獻は各頁に一々明示されて居る點從來の圖書に較べて其親切さを甚だ嬉しく感ずる。只著者も言はるる如く金と銀とは殆んど常に相伴つて産出し、一方が全然單獨に産する場合が稀であるから著述も金と銀とを分離せずに一纏として出版して頂いた方が色々の點で便利が多かつたらうと思はれる。(T)

○京都史話

魚澄惣五郎著 東京章華社發行
定價 二圓八十錢

達筆な著者は誠にこつた菊版三百頁の本書を世に問はれた、餘白が多い、體裁のよい、さうして寫眞版の多い美はしい書籍として、美はしい京の町の過去を語るにふさはしく世に出た、第一平安都城の經營・京都市域の變遷・京都と庶民生活・室町時代の京都の商業・應仁大亂前後の京都・信長秀吉の京都復興・江戸時代に於ける洛東豐國廟・京都人の特性といふ九章から成立する、室町時代や豐國廟は著者の最も得意とする史的考察で筆者なども古くから著者の研究に負ふ所の多いものである。

新著紹介

何にしても歴史家の立脚地から、古文書と實地との相對的検討であるだけに、いかにやさしく書かうと考へても、かけない所が出来てすら／＼と書いた所へ、ボカンと六ヶ敷い古記録が出るのは止を得ない、京都と洪水との關係は防鴨河堤使以來の問題であるが著者は禹王廟の來歴などを明にして最後に秀吉のお土居が下鴨橋の西南、水衝の地に於て、二重の堤防お土居になつてゐることを明にし三百年以前のこの堤防が二重にも出来てゐたので、今度昭和九年の大水に危く難を免がれることを指摘されたのはうれしい。お土居の南端、五條橋詰から七條までの土手町から更に西進して油小路に達し南進して東寺の南へ廻はされてゐた史蹟について、拙著平安京變遷史附圖にやゝ誤記があることは、著者の同人に語つて置いたことである、不幸にして史料や不足にして正しき解答が出来ないでゐるが、いづれは訂正したい希望をもつてゐる。著者がこの點について疑問を記されてゐるのは、全く筆者の考ふる所に合する、どうか著者の同人に依頼して、その邊のところを明にしてほしい、金光寺がお土居の外？内？といふことで問題は決せられるかと思ふ。嘗つて本誌にのせた七條新地の略圖も幾分の參考にはなる。(藤田)

○近畿ハイキング地圖集

大阪 佐藤郷土地圖研究所 定價八十錢
孜孜として倦く所をしらぬ佐藤佐平氏は、さきに皇陵巡拜圖を出したが、今度は京都附近・奈良附近・大阪附近・神戸

附近の四軒を合して八十錢といふ發售である、各篇適當なコースをとつて横斷・縦走いろ／＼のコースと、それに近い名所舊蹟を網羅してある、六甲山の遊覽・妙見・藤尾甲山等神戸の附近から大阪は河内・高野・和泉にわたり奈良から京都いづれも名所舊蹟ばかりでない。従つて新しいコースに新鮮な景觀を味はんとする人々にとつては望外の寶典たるに恥ぢないであらう。たゞ印刷がやゝ野暮くさい、すつきりしないといふ批難があるかもしれないが、むしろ素朴の氣味があるとして、推賞しておくべきであらう。中學校や女學校のハイキングに早速間に合ふやうにしてあるのがうれしい。

(藤川)

雑 報

○和歌山三重兩縣各地に於ける南河内地震の震度

昭和一年二月二十一日の南河内方面の地震の震度を震央より隔遠の地方で調べて見た。尤も旅行は他に要件があつたので、震度のみを十分には調査することを得なかつたが、大體の調査によつて、特殊な地方に震度の大なる地であつたことを明白にするを得た。

五條 奈良縣下であるが序に記す。時計は止りし處多し。音二回あり、驚きて空を仰ぐ間に搖れ初む。音響は北より來る。棚の物品中南向のものよく落つ、東西向のものは落ちず。

壁は南北に面するものに龜裂多く、東又は西に倒れしものあり。井水濁れるものあり、特に西岡方面の病院の附近よく濁る。小形の墓碑倒れ、大形のものは左旋、四脚臺ある碑は脚折れしものあり、燈籠よく倒る。石碑は南に移動せるものあり、土塀は龜裂せしものあり、その瓦屋根は波狀に曲り、一部崩るゝものあり。屋根瓦は少しく落ちたる處あり、北方の牧野村大澤に龜裂、西久留野・上之に龜裂、上之には巾一握長三〇米、上垣内には巾五握長一〇米の南北に走る龜裂生ぜり。

橋 本 音響は北より來り、後振動、壁は隙を生ず。石碑よりも石燈籠倒れたり。屋根瓦少々落つ。

高野口 橋本よりも屋根瓦の落ちたるもの多し。

名 手 古土塀の瓦落ちたるものあり。多くは時計止まらず、止りたるは一部に過ぎず。

星 屋 時計止りし家(東向の時計)あり。屋根瓦の被害全くなし。紀ノ川谷にては五條の震動最も強かりし模様に聞けりと語るものあり。

和歌山驛 被害なし。

田 邊 省線紀勢西線田邊驛附近は時計止りし家多し。震動暫くにして止む。

白濱温泉 白濱錦城館の臺所の時計は止まる。他は止まらざりき。浴客中には地震を知らざりし者あり。

勝 浦 電燈コード甚しくゆれる。時計止る。他に被害な